

## 令和4年度第1回男女共同参画審議会資料に係る意見・質問に対する回答

## ●意見

NO.	資料	ページ	項目	内容	回答
1	【資料1】	全体	資料のタイトル名等について	タイトルの「第2次男女共同参画計画(甲賀市女性活躍推進計画)進捗状況調査表」の意味が分かりにくいと思います。(誰が誰に調査したものなのか) 本審議会用資料としては、次回以降は、 ①タイトルの最後の部分を、例えば「進捗状況取纏表」のようにし、 ②注書きか何かで、「各事務事業についての令和3年度進捗状況及び令和4年度計画に関する、市・担当課への調査結果」の様なコメントを記載し、 ③「事務事業」とは何かについても記載しておくとう分かりやすいかと思ひます。	タイトルについては、商工労働課から各所管課へ昨年度の取組状況等について調査を依頼するための資料であり、審議会の委員の皆様にはわかりにくいタイトルになっています。 ご意見いただきましたとおり、委員の皆様によりやすい資料となるようタイトル名等について、今後検討いたします。
2	【資料2】	P2~P6	全体の構成について	本来であれば、 ①基本目標毎の資料の構成(順序)を「主な取組」→「実績数値」→「総括」に変更し、 ②「総括」については、「取組」だけでなく「実績数値」についての評価を含める(前年からの改善(或いは後退)であるとか、次期目標に対する進捗状況が順調なのか等)のほうが良いかと思ひました。(このような取組をした結果、実績がどうだったというストーリー。) ただし、この順番にした場合、以下の点をどうするか ①令和3年度の実績数値がない項目がある。 ②令和3年度の取組みが、必ずしもすぐに令和3年度の実績として数値に現れるものではない。 構成順序は変えない場合でも、「総括」欄には「実績数値」についても触れるということも考えられます。	報告書については、平成30年度から同様式を使用しており、今年度も同様に作成いたしました。 報告書の見せ方としては、結果を先に記載したほうが良いと考えますが、ご意見いただきましたとおり、説明する場合は、「これらの取組の結果、指標がどうなったか。」といったストーリーがわかりやすいと思ひます。 他の分野別計画の報告書と整合を図りながら、報告書の構成等、ご指摘いただきました点について、今後検討いたします。
3	【資料2】	P2~P6	市民意識調査の実施について	令和3年度の「実績」数値がないものの注書きとして、「市民意識調査は各目標年度の前年に実施予定」とありますが、今回の注書きとしてはその様に記載するしかないかもしれませんが、そもそも論として目標年度の前年まで状況が分からないと、今の打ち手(施策)で効果があるのか、十分でなければ新たな打ち手(施策)をどうするのかという判断をするのが手遅れにならないのかという心配があります。 何か途中の年度でも、成果・進捗を図ることができると良いのですが。	市民意識調査については、計画の64ページに記載しているとおり、各目標年度の前年に調査を実施することとしています。 令和2年度までは、秘書広報課が「市政に関する市民意識調査」として各課からの質問事項を取りまとめ、毎年度実施していましたが、昨年度から、計画指標に関するアンケートは各所管課において実施する方針に変更されたため、計画に記載のとおり、今回は令和5年度にアンケートを実施する予定です。
4	【資料2】	P2	基本目標Ⅰ 実績数値 「父親の育児参加率」について	「父親の育児参加率」の実績欄には、お子さんの年齢ごとの参加率がありますが、3つ合計した場合の参加率を参考に見ることはできませんでしょうか。 令和3年度の実績を見ると、前年と比較し参加率が下がった年齢と上がった年齢がありますので、トータルするとどうなのか。 また、これがわかれば、仮に「総括」は実績数値も踏まえて記載する場合には、コメントしやすくなるかと思ひます。	令和2年度全体参加率：59.4% 令和3年度全体参加率：60.1% 全体の参加率は、0.7ポイント上昇しました。
5	【資料2】	P6	推進体制 「主な取組」欄及び「総括」欄について	「主な取組」欄の「職員研修事業、人事評価事業」欄の「課題」欄の2~3行目に「係長昇任」、また8行目に「昇任意欲」という言葉が使われていますが、「総括」欄の2行目には「女性職員の昇進に対する意識」という言葉になっており、 ①「昇任」か「昇進」何れかに、 ②「意欲」か「意識」何れかに、 それぞれ統一したほうが良いのではないかと。	ご指摘いただきましたとおり、表現を統一するため、「女性職員の昇任に対する意欲」に修正します。

## ●質問

1	【資料2】	P3	基本目標Ⅱ 実績数値 「市内企業における男性の育児休業取得率」の注釈※7について	5つ目の指標「市内企業における男性の育児休業取得率」欄の「令和2年度」欄の注※7 突出した場合を除いた場合の参考値12.4% (調査結果に大きな影響を与える回答があったため、当該データを除いた値を参考地として算出している。)の 意味がわかりにくいので、説明いただきたい。	令和2年度の実績数値については、市内の比較的大きな事業所が制度の利用促進をされたことにより、対象となる男性従業員全員が育児休業を取得されたという結果が大きく影響し、29.9%と非常に高い数値になりました。 注釈7は、令和2年度の実績数値とそれ以降の実績数値が乖離する可能性を想定し、当該事業所の数値を除いた場合の参考値を記載しています。 なお、同年に実施した滋賀県の労働条件実態調査結果報告書においても、同じような結果が出ていることから、同様の注釈を明記されています。
---	-------	----	--	---	--